

ひとが真ん中。のまちづくり



▲8年度当初
予算について
詳しくはこちら

新…新規事業 D…DXの推進

ひとを守る | 安全・安心な医療防災体制の構築へ |

新 D 被害認定調査業務等デジタル化事業 1,520万円

罹災証明書の交付および被災者情報の一元管理を行うシステムにより、災害時における被災者の早期生活再建を図ります。

新 D 画像診断等AI導入費助成事業 900万円

画像診断等のAI導入を希望する医療機関に対し、導入費用を助成することで医療従事者の業務負担軽減と質の高い医療サービスの提供を支援します。



画像診断等AI導入費助成事業

ひとを育む | 妊娠・出産から子育て、大学などの高等教育まで切れ目のない支援へ |

新 市立小学校給食費無償化事業 16億9,608万円

子育て世帯の経済的負担を軽減するため、8年4月から市立小学校に在籍する児童の学校給食費を無償化します。

新 5歳児健康診査事業 320万円

発達障害などを早期に把握し、適切な支援につなげるため、おおむね4歳6カ月児から5歳6カ月児までを対象に健康診査を実施します。



市立小学校給食費無償化事業

ひとを支える | 誰もが役割を持ち、お互いに支え合い、自分らしく輝ける社会へ |

新 D 窓口スマート化事業 1億7,518万円

窓口関係課および各支所において「書かない窓口支援システム」の導入などを進め、来庁者の待ち時間短縮や手続き負担軽減などの利便性向上と職員の業務効率化を図ります。

新 D 市立および私立保育所等の徴収事務効率化 1,916万円

市立の保育所等において、キャッシュレス決済などを開始するほか、私立認可保育所等に対し、キャッシュレス決済の導入経費を助成し、保育現場のDXを推進します。



窓口スマート化事業

ひとを豊かに | 市民生活の向上と心豊かな暮らしの実現へ |

新 脱炭素先行地域づくり事業 4億7,077万円

医療機関などに対する再エネ・省エネ設備や医療機器用蓄電池などの導入を支援することで、脱炭素化と地域医療体制の強化を目指します。

新環境センター整備事業 2億42万円

9年度10月供用開始に向け、7年度に引き続きプラント設備の建設や特別高圧電線路自営線整備工事などを実施します。

※7年度3月補正に310億2,850万円を前倒し計上



脱炭素先行地域づくり事業
(地域医療機関)

ひとを元気に | ひととまちが元気に輝き続け、新たな魅力が生まれるまちへ |

新 アーバンスポーツ魅力創出事業 1,343万円

8年4月から市営初となる「大手公園スケートボードパーク」「南大分スポーツパーク3x3バスケットボールコート」の供用を開始するとともに、7年度に引き続き「スケートボード大会」「アーバンスポーツフェス」を開催します。

インクルーシブ遊具*体験会実施事業 500万円

インクルーシブ広場の整備に向けた実証実験として、大分城址公園にて遊具体験会を実施します。

*インクルーシブ遊具…障がいの有無や身体能力の違いに関わらず、誰もが安心して共に遊べる遊具



アーバンスポーツ魅力創出事業
(スケートボード大会)

ウェルビーイングな
社会の実現に向けて

学校の体育館などに
空調設備を整備
7年4月～8年3月



教育環境の向上や避難所機能の強化を図るため、すべての市立小中学校の体育館などに空調設備を整備

アーバンスポーツの
環境整備
7年5月～8年3月



県内初となる九州大会規模のスケートボード大会を開催するとともに、市営初の本格的なアーバンスポーツ施設「大手公園スケートボードパーク」と「南大分スポーツパーク3x3バスケットボールコート」を整備

里帰り出産家庭への支援
7年7月～



県外から里帰り出産する妊婦を受け入れる家庭に対する経済的支援と、産婦に対する育児支援を開始

科学体験イベント「おおいた
サイエンスパーク2025」の開催
7年8月



子どもたちが科学への興味を持つ機会を提供するため、小中学校の夏休み期間中に科学体験イベント「おおいたサイエンスパーク2025」を開催し、約5,400人が参加

若草公園の芝生化などの
リニューアル
7年9月～



市中心部に位置する都市公園である若草公園の憩いの場としての機能を高め、中心市街地の活性化を図る(8年夏ごろ供用開始予定)

「おおいたし電子図書館」の
オープン
7年10月～



スマートフォンやパソコンから、24時間365日、どこからでも読書を楽しめる非来館型図書館サービス「おおいたし電子図書館」を開館

7年度に
実現した
主要な
事業

政策の取組状況



▲詳しくは
こちら

メタバース空間を活用した
不登校児童生徒支援
7年9月～



学校内外の専門機関などで相談・指導を受けていない児童生徒に対して、メタバース空間「めたふれ」において、イベント情報の提供やチャットによるコミュニケーションなどを実施

マイナ救急の実証開始
7年10月～



救急隊がマイナナンバーカード(マイナ保険証)を利用して、傷病者の受診した病院や処方された薬などの医療情報を確認し、より適切な救急活動を実施

「脱炭素先行地域」への選定
8年2月



国が進める「脱炭素先行地域」として、本市の「脱炭素」と「地域医療の継続性の向上」の同時実現を図る取り組みが選定された